

2022

えーる!



▲たくさんの庭が集った「里山オープンガーデン」



▲3年ぶりに開催された「いっておかえり 鹿野市」



▲解体される鹿野公民館を、アートでお見送り。



▲勇壮な声が響き渡った「天神祭の網代」



▲コロナ収束と平和を祈る、とうろう流し。



▲15年の歴史に幕「農家レストランたぬき」



▲御鎮座 1125年の「二所山田神社式年大祭」



▲寒空の中たくさん的人が集った「鹿野小同窓会」



▲30回目の記念すべき回を迎えた「銀嶺の舞」

まちづくり応援団 **えーる!**



花火で広がる人の輪 かの冬花火「銀嶺の舞」2021 開催

新 年あけましておめでとうございます。今年も一年よろしくお願ひいたします。

今年は、令和3年12月11日に実施され、29回を迎えたかの冬花火「銀嶺の舞」についてご紹介します。鹿野の風物詩となつたこの催しは、28回目と同じく鹿野小中学校グラウンドで、ドライブインシアター形式で行われました。

鹿野ファームプレゼンツと銘打たれただけあって、会場ではおにぎり・おでん・フランクフルトなどの販売に加え、鹿野ファームの加工品販売も行われていました。今回は会場で使えるクーポン券がもらえたので、しっかりと使わせていただきましたよ。

さすがは12月、寒さ厳しい鹿野の夜でしたが、自動車に戻れば暖房の効いた専用席があるようなものです。これもドライブインシアターの利点ですね。

そんな「銀嶺の舞」を支えてくださっているスタッフの皆さん。自動車の誘導、飲食店の販売など、たくさんの力が集まっています。

友人や仕事の同僚など、いろいろな人ががんばっていることが実感できるのも、鹿野の催しのいいところですね。

まつて、この催しができているんだなと感じます。スタッフの中には友人の姿もあつて、近況報告も兼ねていろいろ話をすることもでき、ちょっとした同窓会気分も味わえました。



進化する「銀嶺の舞」

花火の思い出と今、そして未来へ



「どうして、冬に花火があるんだろう?」初めて冬に花火イベントがあると聞いた時、わたくしはまだ小学生でした。花火と言えば夏に上がるものと思っていたので、ちょっと不可思議な感覚でした。

花火だけなら家の2階からよく見えていたものですから、電気を消して真っ暗な中、窓を開にして、頬が痛くなるような寒さの中で、遠くに上がる花火を眺めていた記憶があります。

そんな冬を何度も過ごしていきうち、気が付けば12月になると「今年も花火が上がるかな」と期待するようになります。

社会人になって、会場まで花火を見に行くようになると、会場の熱気に驚くと同時に、ワクワクする気持ちを感じるようになります。花火だけではなく、ライトをランタン風にして並べたり、総合体育館の駐車場をぐるりと囲むたくさんの中の出店だったり、特設ステージで行われるイベントだったり……まさに、一つのお祭りのようだ。そんな雰囲気だったことを知つてからは、寒い中ながら必ず会場に行くようになりました。また別の年には、しつかり着込んでいても足元から

30回目を今冬に控えた、記念すべき今年の「銀嶺の舞」は、どのような形式で行われるのでしょうか。きっと、思い出に残るすてきな催しになってくれると思います。

令和4年、30回目の花火。そして、その先さらに続いていくであろう「銀嶺の舞」。まちづくり応援団えーるは、変わり続け、進化し続ける鹿野の冬花火の行く先を、これからも追いかけていきます。

そんな中で打ち上がる花火も、会場で見ると家から見るのはまつたく違う顔を見せてくれました。派手なレーザー光線の演出や音楽は今年も行われていましたが、それに加えて炎が吹きあがる演出がされた年もありました。昔の写真を見返してみると、ほぼ毎年何枚かは出てくる「銀嶺の舞」の写真に、その回ごとの工夫が見て取れます。

28・29回はドライブインシアター形式で行われていますが、今後もこのような形で行われるのか、それとも新しい形が生まれるのか、それはわかりません。

30回目を今冬に控えた、記念すべき今年の「銀嶺の舞」は、どのような形式で行われるのでしょうか。きっと、思い出に残るすてきな催しになってくれると思います。

令和4年、30回目の花火。そして、その先さらに続いていくであろう「銀嶺の舞」。まちづくり応援団えーるは、変わり続け、進化し続ける鹿野の冬花火の行く先を、これからも追いかけていきます。

いま、鹿野のために できること



ま

ちづくり応援団えー
るの活動が始まって

今月で13年。すいぶん長い間、鹿野のことを紹介してきたなと思います。

そんな「えーる！」の

今月号では、これから鹿野について、ちょっと考えてみようと思います。

皆さんもご存じのとおり、鹿野地域は年々人口

が減少しています。これが鹿野の数々の催しも、人口が減少していくれば、受け継ぐ人も減っていき、いつか開催できなくなってしまうでしょう。それだけではなく、鹿野地域としての営み自体が失われてしまうこともあります。

これまで何度も紹介している鹿野のイメージアップをはかれて、木製ベンチを各所に設置したりと、地域のイメージアップをはかれていました。

コナラなどの雑木を植えたり、木製ベンチを各所に設置したりと、地域のイメージアップをはかれていました。これまでも何度も紹介している「木漏れ日計画」や、カフェの起業を通じ、鹿野への集客や雇用・移住につなげるという「日本一のカフェの里」計画を考えられています。

例えば、鹿野の風プロジエクトの福田さんは、鹿野の未来構想と長期戦略戦術として、鹿野の魅力を高めるための活動をしています。

確かに、わたしが子どもの頃と比べても人口は半分近くにまで減少し、高齢化も進んでいくという現実が、鹿野にはのしかかっています。

しかし、ここで何もないまま終わりたくないなど、そう思います。鹿野という地域が、これから何年、何十年と営みを続けられるように、今こそ何かを考え実行していくときなのではないか、と思っています。



○鹿野のメインストリートに、たくさん的人が歩いてくれるといいな、と思います。

チーム鹿野でめざせ 「人が幸せになれるまち」

東京から鹿野に移住してきたウェブデザイナーの中村美江さんにお話をうかがいました。平成23年、東日本大震災がきっかけになり、ご主人が山口県出身であったことや、山口県の自然が自分の感性に合ったこともあります。鹿野へ移住された中村さん。どうすれば、この鹿野でずっと暮らしてもらえるのか？ 中村さんのお話を聞きながら、実は福岡からのリターン経験者であるわたしなりに考えてみました。

仕事



生活する上で欠かせない仕事。会社の事務所をすぐに誘致するのは難しいですが、インターネットを利用して文筆業やフリーランスの仕事をすれば、住んでいる場所は関係ありません。コロナ禍で注目されたテレワークという手段もありますね。実は中村さんとのお話しはインターネットを利用して行ったのですが、こうした話し合いをするのも、必ずしも対面でなくともできるんだなと感じました。

事務所を構えるだけに留まらない働き方が認知され始めた今、鹿野にいながら日本全国、世界の会社とも仕事をすることができますよ。



価値観



移住を考える人々は、当然ですが鹿野に暮らす人たちとは違った考え方、価値観を持っています。その価値観が、時にぶつかり合ってしまうこともあるでしょう。そんな時に、仲を取り持ってくれる人の存在が大事になってきます。鹿野に住む人は、新しい仲間を受け入れる気持ちで、移住する人は、地元の人に溶け込もうという気持ちで、手を取り合って歩み寄ることが大事だと思います。

鹿野の魅力の1つに、季節の恵みなどを分け合えることがあるという中村さんのお話がありました。野菜など自然の恵みだけではなく、皆が自分の生み出せるものを分け合うことができれば、「この人はこんな物を生み出せる人なんだ」と知ることにもなり、歩み寄りに一役買ってくれるかもしれませんね。



チーム鹿野で！



移住から、定住まで人の気持ちを動かすには「この町に住んで良かった」と思えるものが必要だと思います。鹿野は山間部にあり、まだ店も少なく交通の便も悪い場所。でも、ここにいると幸せ、そんな町になれば人は自然に留まってくれるのではないか。

わたしが福岡から帰った時、強く感じたのは鹿野の「癒し」でした。都会にはないもの、例えば四季の自然であるとか、穏やかな時間であるとか……そういうものが、自分にとってとても幸せなものに感じられました。

しかし、人によって幸せに感じるものは違いますし、また、実現できることもたかが知れています。みんなで「チーム鹿野」を結成し、自分にやれることを続けていくことができれば、いろいろな幸せが実現して、鹿野が住む人たちにとって「幸せになれるまち」になってくれるのではないか、と思います。

鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2022.3
Vol.77

動画でつなぐ 鹿野の未来

塚田さんが鹿野のことについて活動されています。鹿野の情報をお配信するようになつたのは、会議の際に若者へうという話の中で、ユーチューブで動画をお配信することを考えたからなのだとか。

令和3年に行われた成人式を祝う会で、新成人をエスコートをした塚田さん。その際に、動画配信

今日はユーチューブ上で「まるごとかの、チャンネル！」というチャンネルを開設し、鹿野の情報発信を行っている塚田竜二さんからお話を伺いました。塚田さんは障がい者施設で職員をしながら、カイロプラクティックの施術を行うカイロプラクターとしても活動されています。仕事以外にも、明るく元気な鹿野を

皆さんは動画配信サービス「ユーチューブ」をご存じですか。誰でも動画を公開できるサービスで、もしかすると視聴するだけでなく、投稿しているよ、という方がいるかもしれませんね。

を手伝つてみたいといふ
人と知り合い、2人体制
で動画配信を行うことに
なりました。

しみ戻つてきてほしいと
いう思いを込めてのこと
だとか。

「将来的には山口県全域を対象に動画を作つていきたいと考えています。鹿野以外の地域も取り上げることで、鹿野と外の地域を互いに紹介し、鹿野から外へ、外から鹿野へ、人の交流を生みたいです」そう語る塚田さん。

塚田さんが配信している鹿野の動画は、おおおね月一回のペースで投稿されています。ユーチューブで、チャンネル名である「まるごとかの CHANNEL！」で検索し、視聴してみてくださいね。



こちらからもリンクしています



発行 まちづくり応援団えーる (<https://yell.link/>)

動 画を撮るという、いつたいどんな機材を揃える必要があるんだろうかと思われる方もいらっしゃると思うが、塚田さんはスマートフォンと外付けマイクを主に使われています。今はスマートフォンがかなり優秀なので、動画を始めることが自体は、意外と敷居が低いのかもしれませんね。

この日は塚田さんがご自身の配信準備を始めることで、本取材は、ふるさとマルシェかので行いました。

今回は、ソロキャンプに挑戦されるとか。しかし、キャンプ 자체が初めてとの

うかと思われる方もいらっしゃると思うが、塚田さんはスマートフォンと外付けマイクを主に使われています。今はスマートフォンがかなり優秀なので、動画を始めることが自体は、意外と敷居が低いのかもしれませんね。

鹿野ファームの豚肉や鹿野のお米をはじめ、店内でキャンプで食べそうな食材を買い込んでいます。

「今後は、石船温泉や鹿野ファームでも撮影をしてみたいですね。農業をしていき始めるそうですが、細かな部分は現地の様子を見ながら決めていくそうです。今回もキャンプという大枠だけをまず決めて、いろいろな準備を始めていらっしゃいました。

「県外の人と直接話す機会ができたり、久しぶりに会った人から声を掛けられたり、動画配信を始めてたくさんの声をもらうようになりました」と語る塚田さん。真冬の、しかもソロキャンプ初挑戦という撮影の様子は、まるごとかのくチャネルで配信されていますよ。



●鹿野ファームのスペアリブ。動画内でおいしそうな料理に……。

ただいま 準備中



●このナガイモもおいしそうな料理になりました。

塚田さんの 「しあわせのはなし」

今回取材した塚田さんにとっての「しあわせ」。それは「いろいろな人と楽しみを共有するとき」だそうです。

昔から大勢で遊ぶことが好きだったという塚田さん。例えば、忘年会や飲み会、ゲームでも、複数人で楽しむことが好きなのだと語ります。楽しいことも、「1人ではなくみんなでやれば、もっと楽しくなりそうですね。



みんなでつくる新しい庭 わくわくガーデン、始動



今年も里山オープンガーデンの季節がやってきました。5月末まで開催予定で、今回も鹿野に暮らす皆さんが造った庭園を楽しむことができそうです。

今月の「えーる！」では、オープンガーデンを見て「自分も参加したい！」という思いをかなえようとしている田中京子さんをご紹介します。

上の写真の場所には、もともと家があつたそうです。ここで合宿所をしたいという思いを持っていた田中さんでしたが、夢かなう前に家は解体。その跡地に、庭を造つてみたが、夢かなう前に家は解体。田中さん。思いはあれど、実現までは至つていませんでした。そこに里山オープンガーデンの発起人である福田さんが声をかけ、今回の計画が始ま



まつたんですよ。

近隣住民や親せきの人の好意もあって、庭を造る準備は万端。田中さんは「3年ぐらいの計画で、みんなが集まつて、楽しく庭を造つていただきたいです」そう、これからの展望を語ります。

わくわくガーデンと銘打つて3月21日にスタートを切ったこの計画。この庭が子どもや孫の遊び場になってくれればという思いを持つ田中さんの思いが、庭造り参加者の皆さんとともに、夢から現実になるべく動き始めました。

裏面には庭のイメージ図を載せていました。この庭が現実になって、子どもたちが喜び、思い出に残る庭ができる……

そう思うと、まさに「ワクワク」してきますね。みんなで力を合わせて、夢をつくりましょう！

庭づくりの 仲間募集中

作業は定期的に行っていきます。毎回参加できなくても大丈夫。少しでも力を貸したい、一緒に庭を造りたいという人は、ぜひ一度連絡してみてくださいね。

作業日 毎月第1月曜日（雨天時は第3日曜日に延期）の9時～12時

問合せ 田中さん☎090-9460-0470

福田さん☎080-6311-4079

思い描く庭の力タチ

田中さんの家族が描いた、夢のイメージ図。このままの形になるのか、よりよく変わらのか……まだまだ分かりませんが、きっとできな庭ができそうな予感がしますね。

中心部にはロータリーや駐車場を設け、鹿野にやって来る人にとつて欠かせない自動車を庭の間近に止め、すぐに庭園を楽しむことができるようになります。

小川沿いには、ウッドデッキが建設され始めています。このデッキから、ぐるっと庭園を見回すなんていうこともできそうですね。



この場所で子どもたちがトマトを探ったり、小川で魚を釣ったり、そういう体験をして楽しんではほしいという思いも込められています。田中さんの「しあわせのはなし」にも通じる思いですね。

敷地の隅にある蔵もポイントの一つです。リフォームにより、雨宿りや休憩のために使用したいと考えているのだとか。



庭園内の花壇はレイズドベッドという、立ち上げ式で背の高い花壇を採用する計画です。間近に花を見るができるだけでなく、高い位置に花壇があるため、花壇の手入れも低い花壇よりしやすいんですよ。

田中さんの「しあわせ」についてお伺いすると「落ち葉拾いをして焼き芋を作るような、ちょっとした自然体験ができる場所がほしいと思っていました。自分たちが造ったこの庭で、子どもたちがちょっとした自然体験をすることで『今日、ここに来てよかったです』と楽しんでくれる姿を見ることが、しあわせのかなと思います」と語ってくださいました。

田中さんの
しあわせのはなし

地域が育てる 古民家の整体院

整 体院かよ、というお店をご存じでしょうか？ 西河内公民館の隣にある古民家を利用して令和2年に開業した整体院です。今月号の「えーる！」は、整体院を営む藤本香世さんにお話を伺いました。

病気がちな父親が、整体で少しでも楽になつてほしい……という思いから整体を始めた藤本さん。資格取得後、結婚・子育てを経て、身内への施術や、北海道でスーパーレーのお店を営んでいるお兄さんの所で店の福利厚生の一つとして整体を行つていたそうです。

本場の整体は医療行為でもあるそうですが、藤本さんの行う施術はヨガの要素を取り入れ、体質改善や、女性特有の頭痛や疲労感などの不定愁訴を治すことに主眼を置いています。ヨガを組み合わせることで、施術後の生活の中でも、自分の体をコントロールできるようになつてほしいとの思いからのことだとか。取材中、自律神経を整え、リラックスする効果があるユーカリの香りが漂っていました。施術だけではありませんでした。

地域の方をはじめ、たくさん的人に支えられた整体院を、ぜひ一度利用してみてくださいね。

地域の方をはじめ、たくさん的人に支えられた整体院を、ぜひ一度利用してみてくださいね。

体院かよ、というお体に触れるだけではなく、さまざまな方法で心身を整えてくれていることを感じます。

「朝起きて体が痛いと、とても辛さを感じるもので、施術を受けた次の日、体が楽になるように、お客様に寄り添える施術をしたいと考えています。体の調子が悪いと、気持ちも沈んでしまいますが、施術によってその方の体質を活かし、潜在的魅力を引き出し、人生を豊かにするお手伝いをめざしています」と、施術する上で第一に考えていることを語る藤本さん。

その思いを支えてくれる地域の皆さんについても話してくれました。

「古民家を整体院にと紹介してくださったり、お庭をきれいに管理してくれる地域の方……ずっと、地域の方に育てていただきたいいるんだな、と感じています」



「整体院かよ」

営業日 平日9時～17時

※施術は女性限定です。

問合せ 藤本さん ☎ 090-3814-1355

古民家整体院の景色

整体院を開業する場所を探し、いくつかの候補からこの古民家に決めたのは、2階の窓から見える景色や、家の雰囲気を気に入つてのことだつたとか。家も、その前に広がる庭も、とても手入れが行き届いた素敵なたたずまいなんですよ。

藤本さんが場所を決めた理由の一つである、窓からの景色が上の写真です。空と山、家々に、畠の様子……まさに、鹿野らしい風景が楽しめる眺めですね！ この古民家の中

で、特に目を惹くのは、天井にわたる太い梁です。100

年もの年月を経たというこの

木材は、今なお現役で、しつ

かりと建物を支えているよう

に感じました。この長い年月

や、梁が露出した家のつくり

にも鹿野らしさを感じることができます。土壁の様子など

もとても趣きがあり、一見の価値がありますよ。

藤本さんが鹿野らしさを感じ、選んだこの古民家の雰囲

気も、施術とともに楽しんでほし

いな、と思います。



3年ぶりの“いっておかえり” 鹿野市、復活

令和4年も半分近くが過ぎ、もう梅雨の季節になりますね。今月号の「えーる!」では、5月14日に3年ぶりの開催となつた「いっておかえり鹿野市」についてご紹介します。

例年、5月と10月に行われていた鹿野市は、令和元年10月の第16回を最後に、新型コロナウイルスの影響が深刻化し始めた令和2年、3年と開催されないままになつていました。

今回、久しぶりに開催された17回目の鹿野市では、これまでの会場である旧山代街道の走る鹿野中心部だけでなく、その隣の道である鹿野商工会通りや鹿野小学校のある通りも会場にして行われました。

総合案内所となつてい

た旧廣本金物店さんを中心、更生保護女性会や鹿野小PTCAの皆さんなどによる出店が行われました。

それに加えて、会場のあちこちから聞こえてくるのは、鹿野小・中学校の児童・生徒の声。あちこちのお店から、店員として、そしてお客様と

天神祭やかのふるさとまつり、冬花火「銀嶺の舞」など、形をえて続行したり、残念ながら中止となつていたさまざま

な催し。鹿野の元気の象徴ともいえるこうした催しの数々が、同じように復活したり、もつと盛り上がりつたりしていつほ

してやつて来ている子どもたちの声が、とても明るく会場のあちこちから響いていました。

総合案内所のある通りや竹本さんの焼きそばなど、以前から参加されている方に加え、愛ちゃん

家を使つた鹿野婦人会さんのバザー、瀧本さんによるポン菓子も加わって復活した鹿野市を盛り上げていました。

新型コロナウイルスの影響により多くの催しが中止になつていていた鹿野。そんな中でも活動を続けていらつしやる方々に加え、こうして中止になつていた催しがまた開催されたということは、とても嬉しいことだと思いました。

●裏ページでは、鹿野市を歩いて感じたことを綴っています。





鹿野市も歩けば



「久しぶりに鹿野市をやる」……その話を聞いたのは、今年の春頃のことでした。ついに鹿野市復活か、と心躍らせながら迎えた当日。昨日までの雨模様が嘘のような快晴に恵まれました。

高原ならではの涼しい風が吹き抜けた鹿野市。今回から会場になつた鹿野町商工会のある通りがにぎやかな様子は、他の催しを含めても、なかなか見られない光景でした。

会場に着いて、まず感じたのは、子どもたちの明るい声でした。わたがしを作り体験に歓声をあげる児童や、高齢者生産活動センターの產品の説明をす

る生徒たち……こうした声を聞いていると、知らず知らずに気分が高まってくるような気持ちになります。

大人たちに混じった子どもたちが、地域の催しにスタッフとして参加したことを、いつまでも覚えていてくれると嬉しいな、と感じました。

壁に貼りだされた、鹿野小学校児童によって描かれたポスターや、同日開催されている「かくれがマルシェかの」のマップなどを見ていると、ふと名前を呼ばれました。以前、お世話になつた方が、鹿野市にいらつしやっていた

会もないままでしたが、近況を聞くことができ、なんだかとても懐かしい気分になりました。

また、驚くことに、高校時代の友人も鹿野市に出店していました。久しぶりすぎて、なかなか確証が持てなかつたのですが、言葉を交わして「やっぱり！」となりました。聞けば、家業を継ぎながらいろいろな場所に出店しているのだと。同級生のがんばりを知ることができて、とても嬉しい気分になりました。

もちろん、いつも鹿野のためにがんばっている人たちとも出会う機会にな

ります。がんばっている人たちの近況を聞くことができ、自分もがんばろう、一緒に何かできることはないか、など、一緒に何ができるの? など、鹿野に対する思いを新たにすることができるいい機会になりますね。

鹿野市に限らず、こうした催しの場は「再会の場所」なのだ、と常々感じます。普段の生活の中ではなかなか顔を合わせることができない人と出会うことができる。「最近どう? 元気でやつてる?」と言葉を交わし合うことができ……これも、催しの大事な側面の一つと言えるのではないだろうかと思います。

ありがとうの気持ちを込めて 旧鹿野公民館まるごとペイントイングアート



皆さんをはじめとする地域住民有志が集まりました。そして、ありがとうの思いを込めて、旧鹿野公民館をペイントし、見送ろうというイベントが計画されたんですよ。

5月29日から壁の青い塗装が始まり、そこに鹿野小・中学校の皆さんによる絵が描き加えられました。

下準備を終え、迎えた

6月12日。晴天に恵まれた会場には、子どもたちを始め、たくさんの人があ

り出を聞いてみました。

「私たちは新館で最初に結婚式を挙げました。挙式した44年前のことを思

い出し、今まで、元気で

「公民館ありがとうございました！」とみんなで声を掛け、イベントは終了。みんなに素敵な思い出ができた一日でした。

始まる旧鹿野公民館を見送るイベントを行いたい……そんな思いから、鹿野出身の倉富洋介さんを中心、鹿野に移住した皆さんをはじめとする地域住民有志が集まりました。

やつてこれたな、これから文化祭を行ったことや、鹿野町最後の成人式をしたことを思い出します。皆さんも、それぞれをしたことを思い出します。ペイントをしながら思い出を語り、ありがとうという思いで公民館を見送つてほしい」倉富さんとのあいさつで始まったイベントで、皆さんのが

やつてこれたな、これから文化祭を行ったことや、鹿野町最後の成人式をしたことを思い出します。皆さんも、それぞれをしたことを思い出します。ペイントをしながら思い出を語り、ありがとうという思いで公民館を見送つてほしい」倉富さんとのあいさつで始まったイベントで、皆さんのが



間の暑さがだんだん厳しくなり、夏を感じさせますね。

今月号の「えーる！」では、6月12日に開催された「旧鹿野公民館まるごとペイントイングアート」をご紹介します。

公民館、ありがとうございました！



●ペンキ入り風船を、思い切り投げる！



●色とりどりの手形とスタンプが壁を彩りました。

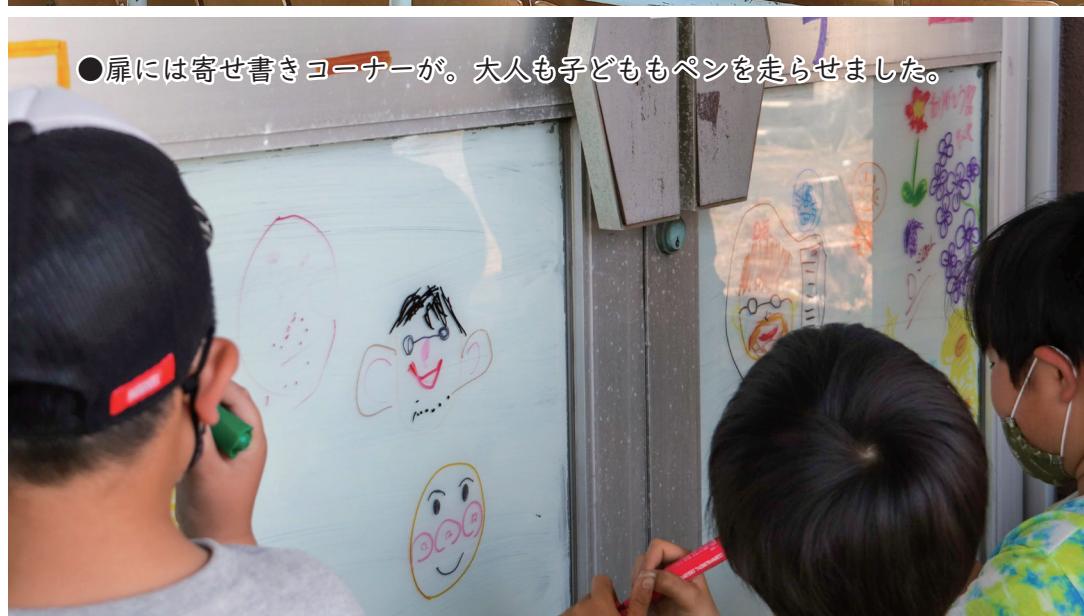
ペインティングアート スナップショット

5月29日から続けられていたアートの土台に、手形やスタンプを使った「鹿野の森型押し」や旧館を風船に入れたペンキで彩る「ペンキ風船投げ」が行われました。公民館を利用したことがないという子どもたちも、「最高」「楽しかった」「風船を投げるのがおもしろかった」と、楽しそうにイベントに参加していました。

●館内の階段もなんだか懐かしい。



●このステージにも、たくさんのお思い出が詰まっています。



●扉には寄せ書きコーナーが。大人も子どももペンを走らせました。

「誰にもやさしいまちづくり」 ～福祉の目線でつくるまち～

暑さも本格的になつてき、すっかり夏になつた感じがしますね。今月号の「えーる！」では、鹿野に拠点を置き、「誰にもやさしいまちづくり」を理念に掲げて活動する、ギャップ・ファーリング株式会社の代表取締役・藤本真樹さんと、社内部門でマネージャーを務めている、岡崎麻衣さんにお話をうかがいました。

隙間（ギャップ）を埋める（ファーリング）という意味の名前を持つこの会社は、令和3年の9月に設立されたばかり。地域生活の中にある課題を解決し、笑顔になれる余裕を生み出したいという

思いで、例えば介護保険が適用外の部分など、隙間を埋めていきたいと考えているのだとか。株式会社である以上、ビジネスを行うことにはなりますが、その活動の根底にあるのは、福祉の目線です。福祉を通じてまちをつないでいく「まちつなぎ」をすることをめざす

暑さも本格的になつてき、すっかり夏になつた感じがしますね。今月号の「えーる！」では、鹿野に拠点を置き、「誰にもやさしいまちづくり」を理念に掲げて活動する、ギャップ・ファーリング株式会社の代表取締役・藤本真樹さんと、社内部門でマネージャーを務めている、岡崎麻衣さんにお話をうかがいました。

ギャップ・ファーリングは、藤本さんを含め3人で活動中です。

さを感じられないかもしない。受け手である地域の皆さんのがやさしさを実感できるまちづくりをしたいと思います」住み

「大局を、一人の力で変えることは難しいと感じたこと、仲間を作りたいと感じたことから、会社の設立に至りました」設立のきっかけをそう語る藤本さんは、NPO法人コネクト・ワンで理事長も務めています。

「ギャップ・ファーリングとコネクト・ワンは法人形態こそ違いますが、2つの活動は車の両輪のようなもの。どちらの団体も『誰にもやさしいまちづくり』を理念に掲げています。やさしい人を増やしたとしても、支援を受けた受け手がやさしくなる環境……こうしたものが存在するまちをつくることが「誰にもやさしいまちづくり」という考え方なんですね。

会社の活動範囲は、まことに手をさしのべてくれることで、仲間を作りたいと感じたことから、会社の設立に至りました」設立のきっかけをそう語る藤本さんは、NPO法人コネクト・ワンで理事長も務めています。

「ギャップ・ファーリングとコネクト・ワンは法人形態こそ違いますが、2つの活動は車の両輪のようなもの。どちらの団体も『誰にもやさしいまちづくり』を理念に掲げています。やさしい人を増やしたとしても、支援を受けた受け手がやさしくなる環境……こうしたものが存在するまちをつくることが「誰にもやさしいまちづくり」という考え方なんですね。



「となりの孫娘」のように人に寄り添う

やまのナースがつくるやさしさ

ギャップ・フィーリング

の事業のひとつである、やまのナース。パンフレットに「となりの孫娘のように」「となりのママ友のように」とうたわ

れるその活動について、岡崎麻衣さんに質問してみました。

—やまのナースとはどの

ような事業なんですか？

「看護師資格を持つ隣人

が、生活の中の不安に寄

り添い、安心して元気に

地域で生活できるよう支

援していく事業です。困

りごとを聞き、その困り

ごとにに対して解決策を考

え、適切なところへつな

いでいきます。たとえば

草刈りなど、地域の人で

生活を守ることができる

活するために、誰かが助

けてくれる、そんなしく

みができるのが理想で

—看護師は病院内で働く

イメージですが、地域に

いる看護師とは？

「私も、元々は病院の中で治療の手助けをする看護師として働いていました。ですが、誰もがフルットな立場で、ふらつと立ち寄ることのできる

地域食堂『ふらつと食堂』などの地域活動をしていく中で、入院する前の元

気な時から関わることが大変なんだと気付きました。地域の中で生活する皆さんが、少しでも長く

過ごせるように、日々の友人と笑い合える時間を

であれば、そのうちの一人だけではなく2人とも

サポートするなど、公的

支援ではできないことも

可能です。また、高齢者の問題に限らず、子育てについても対応します。

介護保険などとも重なる

地域で生活できるよう仕組みをつくろうとしています。地域で生

活するために、誰かが助けてくれる、そんなしくみができるのが理想で

●活動について語る岡崎さん



る、という安心を皆さん

が持てたら、きっと心軽

く日常を送ることができ

るのではないか、という

思いからなんです。不安

な気持ちは『やまのナ

ース』へ置いていければいい

です」

やまのナースの活動は「エンツギ」と名づけられた場所を拠点に、地域みんなの居場所になり、またさまざまなることにはチャレンジできる場所となるよう活動を続けています。

鹿野に暮らす人にとって、鹿野が安心して暮らせる場所になり、少しでも長く、笑顔で過ごせる場所になるよう奮闘する

藤本さんと岡崎さん。「誰にもやさしいまちづくり」が進んで、きっと鹿野がもっと住みやすい場所になると思いました。

鹿野に暮らす人にとって、鹿野が安心して暮らせる場所になり、少しでも長く、笑顔で過ごせる場所になるよう奮闘する藤本さんと岡崎さん。「誰にもやさしいまちづくり」が進んで、きっと鹿野がもっと住みやすい場所になると思いました。



ギャップ・フィーリング株式会社の理念や展開中のサービスなどの詳細、お問い合わせは電話またはホームページからどうぞ。

0834-51-7897

ギャップ・フィーリング



朝晩の寒さが強まってきて、夏の気配がだんだん秋になつてきましたね。

夏の暑い時期であれば冷蔵庫でひんやりとさせて食べた
べることができます。

今月号の「えーる!」では、8月10日に旧ボンブレッドさんの跡地で開店した、「叶家さんについてご紹介します。

元々、光市のバッティングセンターの敷地で営業していた叶家さんは、2年前にセンター閉鎖によって移転先を検討したところ、大潮の知人か

ノで皮に焼き目がつくまで焼
くとカリッとした食感になつ
て、これもおいしい……いろ
いろな食べ方をすることがで
きるんですよ。

ら旧ボンブレッドの敷地を紹介してもらい、開店に至ったのです。ログハウス調の建物も、かつてのボンブレッドさんが営業されていた頃そのままの雰囲気でした。



叶家さんでは、皮のモチモチ感がとてもおいしいおまんじゅう「縁起焼」を主に販売しています。下関発祥の縁起焼は、そのまま常温で皮の食感を楽しみながらおいしく食

モチモチでとてもおいしい
縁起焼。持ち帰つて家でゆつ
くり食べるのももちろんです
が、素敵な雰囲気のお店で樂
しむ……というのも、いいな
と思いました。



緣起燒「叶家」

営業時間 10時～18時

場所 鹿野下730-2 (左の看板が目印です)

定休日 木曜日

Instagram でも情報発信中！



「叶家」さんを鹿野で開店したのは、光市で営業を行つていかじわらやきとした梶原幸敏さんと、従業員のくたはらるか久樂遼さんのお二人です。お二

人に、鹿野の印象についてうかがつてみました。

梶原さんは7年前から光市で縁起焼のお店を始めました。奥様が鹿野の出身であったことや、以前に仕事で秘密尾地区に来たこともあるというお話を、昔から鹿野にはご縁があったそうです。

インターネットの口コミサイ
トでも、丁寧に商品説明をして
くれたという評価があるとお
り、お客さんに対しても丁寧に、
気さくな感じの接客で、店内は
とてもいい雰囲気でした。

鹿野は縁起焼をやるにはとて
もいい環境ですね、と語る梶原
さんの人柄に惹かれ、たくさん
の人が集まる場所になつていき
そうな予感がしました。



○包装された縁起焼

温めても冷やしても
もっちり食感がいい
【縁起焼】饅頭
厳選された食材で

皆様に良いご縁が起きますように。

「鹿野は何もない場所と思つて、いたんですが、意外とおしゃれな町でもあるんだな、と思いました。今井にある、ガーデンカフェーにも行きましたが、素敵なお店でした。」

「縁起焼だけでなく、ケーキの予約販売などもしたことがありました。外にピザ釜ができたら、分野も開拓していきたいですね。外にピザ釜ができたら、分野も開拓していきたいです。」

「縁起焼だけでなく、ケーキの予約販売などもしたことがあります。」

久樂さんは、毎月開催されているかくれがマルシェの喫茶で、お菓子の販売を行つていたのだと。そのご縁から、鹿野でお店をやつてみないかとお誘いを受けたそうです。そのお話が進み、ついに今回の開店に至つたそうです。

「縁起焼だけでなく、ケーキ

たよ」と鹿野の印象を語る久樂さん。自然が好きなこともあり、開店を機に鹿野へ移住されています。

「思ひます」と今後の展望についても語ってくれました。

家族や仕事、知人の縁……

たくさん縁がつながつて、

光市から鹿野にやつてきた縁

起焼。鹿野の新しい「叶家」

さんから、たくさんの「ご

縁」がつながつていけば素敵

だな、と思いました。



○できたてのパウンドケーキと久樂さん

えーる!

2022.10
Vol.84

海辺のオカピー個展 - 子たぬきのパン, 日本, 〒745-0302 山口県周南市鹿野上1260

10:00 鹿野おもてなし塾

インターネットで “えーる！” 鹿野をつなぐカレンダー

台 風が吹き荒れて大変な9月でしたが、無事にお過ごしでしょうか。今月号の「えーる」では、がんばっている人の紹介をちょっとお休みして、鹿野のさまざまな人・活動などを応援することを目的に活動する本団体、まちづくり応援団えーるの情報発信方法についてご紹介します。

さまざまな情報を届けることで、鹿野に住む皆さんが、もっと鹿野のことを好きになってほしいという思いから始めたこの活動の当初から、フリー・ペーパー形式で鹿野のことを紹介していますが、取材・編集の時間や、印刷にかかる費用などを考えると、月一回の発行が精一杯です。

しかし、鹿野の活動は、月一回ではご紹介しきれないほどたくさんあります。もっと素早く、紙面の両面を埋めるほどの取材をしないほど情報発信ができないだろうか、と考えて、インターネットを利用した情報発信を開始しています。

短文や写真を使った方法

な9月でしたが、無事にお過ごしでしょうか。今月号の「えーる」では、がんばっている人の紹介をちょっとお休みして、鹿野のさまざまな人・活動などを応援することを目的に活動する本団体、まちづくり応援団えーるの情報発信方法についてご紹介します。

さまざまな情報を届けることで、鹿野に住む皆さんが、もっと鹿野のことを好きになってほしいという思いから始めたこの活動の当初から、フリー・ペーパー形式で鹿野のことを紹介していますが、取材・編集の時間や、印刷にかかる費用などを考えると、月一回の発行が精一杯です。

しかし、鹿野の活動は、月一回ではご紹介しきれないほどたくさんあります。もっと素早く、紙面の両面を埋めるほどの取材をしないほど情報発信ができないだろうか、と考えて、インターネットを利用した情報発信を開始しています。

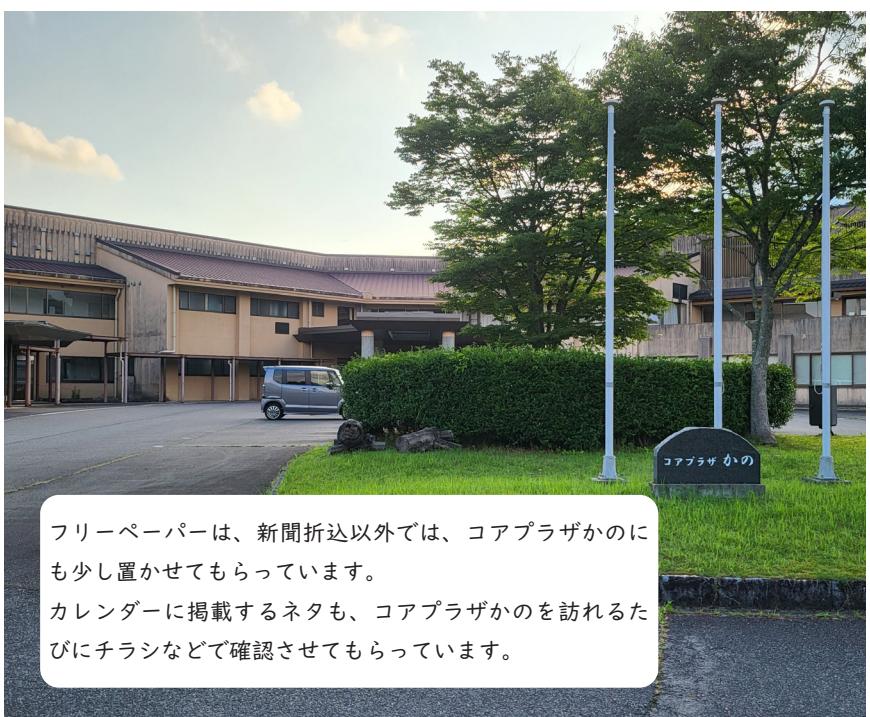
短文や写真を使った方法

な9月でしたが、無事にお過ごしでしょうか。今月号の「えーる」では、がんばっている人の紹介をちょっとお休みして、鹿野のさまざまな人・活動などを応援することを目的に活動する本団体、まちづくり応援団えーるの情報発信方法についてご紹介します。

さまざまな情報を届けることで、鹿野に住む皆さんが、もっと鹿野のことを好きになってほしいという思いから始めたこの活動の当初から、フリー・ペーパー形式で鹿野のことを紹介していますが、取材・編集の時間や、印刷にかかる費用などを考えると、月一回の発行が精一杯です。

しかし、鹿野の活動は、月一回ではご紹介しきれないほどたくさんあります。もっと素早く、紙面の両面を埋めるほどの取材をしないほど情報発信ができないだろうか、と考えて、インターネットを利用した情報発信を開始しています。

短文や写真を使った方法



フリー・ペーパーは、新聞折込以外では、コアプラザかのにも少し置かせてもらっています。

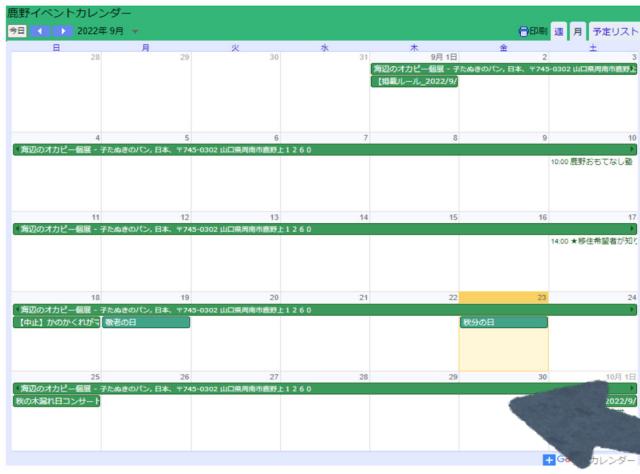
カレンダーに掲載するネタも、コアプラザかのを訪れるたびにチラシなどで確認させてもらっています。

インターネットで公開している情報

インターネットでの活動をまとめた、まちづくり応援団えーるのホームページをご紹介します。

「ここに行けば鹿野がわかる！」をめざして、さまざまな情報を発信しています。

まちづくり応援団 **えーる!**



SNSアイコンなど

インターネット上で鹿野の情報を展開しているSNSの一覧です。フリーペーパーで書ききれなかった鹿野のことを、文章や写真、動画などを使って鹿野を紹介する「note」「Instagram」「Youtube」と、それらの活動を宣伝している「Twitter」「Facebook」を利用しています。団体規約や問合せメールも掲載しています。

鹿野のイベントカレンダー

チラシやインターネットで確認した内容を掲載しています。鹿野に関する催しなら、鹿野外で実施しても掲載していきます。カレンダー下の申し込みフォームなどから、情報をお寄せください。

※掲載可否はまちづくり応援団えーるで判断させていただきます。また、私事の都合で更新が間に合わない場合もあるため、ご了承ください。

※申し込みフォームの冒頭に注意書きを記載していますので、ご確認ください。

※基本的な文章の体裁は、カレンダー各月の最初に掲載しています。

フリーペーパーのバックナンバー

まちづくり応援団えーるが発行したフリーペーパー「くちコミ」「えーる!」のバックナンバーを掲載しています。1年以上前の発行号は年ごとにまとめて掲載しています。

この原稿については、著作権法の範囲で自由に印刷・配布してかまいません。(できれば、まちづくり応援団えーるの紹介をしてくれると嬉しいです)

さらに過去の「えーる!」や以前に発行していたフリーペーパー「くちコミ」



2013



平成24年



平成22年



平成23年

(C) 2009 まちづくり応援団えーる

ぜひ一度、ホームページを見てみてくださいね。

まちづくり応援団えーるのホームページは、SNSでの更新を含め、随時更新しています。紙媒体以外でも紹介する鹿野の魅力を、ぜひ一度インターネットでも見てみてくださいね。

ホームページへは、まちづくり応援団えーるで検索するか、下のバーコードを読み込むと、アクセスすることができます。

まちづくり応援団えーる



願いを乗せて流れる 清流の灯ろう



秋 晩の冷え込みが強まっていますね。今月号の「えーる！」では、平成の名水百選に選ばれた清流通りで、10月一日に行われた灯ろう流しについてご紹介します。

新型コロナウイルスの収束や世界平和など、願いがかなうように、と作られた色とりどりの灯ろう。これは、鹿野に住む人をはじめ、たくさんの人が手作りした、世界にたつた一つだけの灯ろうなんです。

この灯ろうは、イベント当日までコアプラザかのに飾られていました。

正面玄関入ってすぐの口
ビーにずらりと並んだ灯
ろうをご覧になつた方も
いらつしやるのではない
でしようか。

さて、灯ろう流し当日
を迎えて、漢陽寺横の池
に浮かべられた灯ろうた
ち。周囲がしだいに暗く
なつてくると、灯ろうの
輝きがよりくつきりと浮
かび上がります。

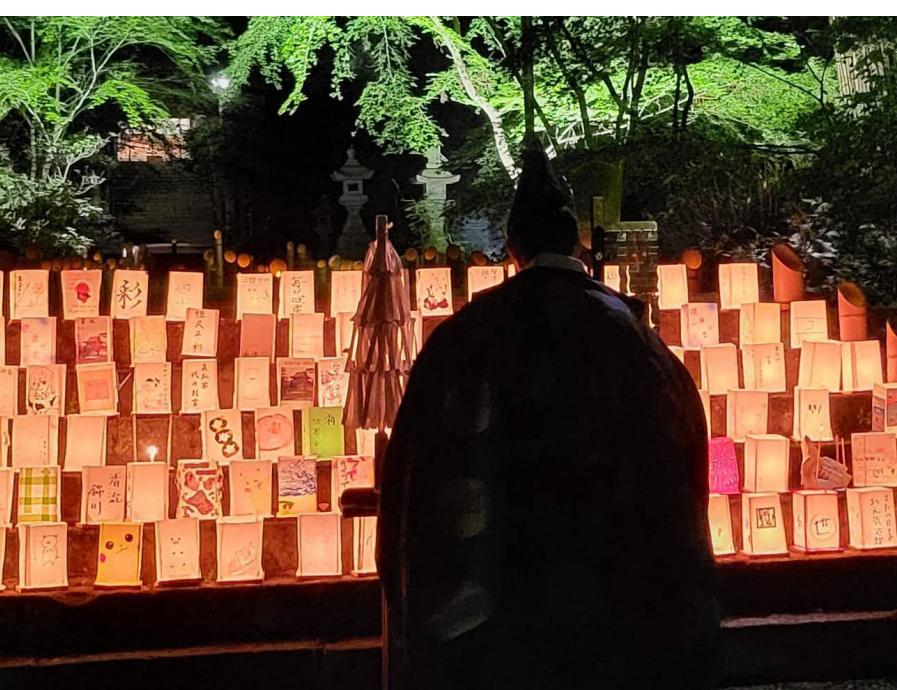
水路へ向けて灯ろうが
進み始め、水路の勢いに
乗つて流れていくと、会
場に集まつた子どもたち
は、灯ろうを追いかけな
がら「あの灯ろうが僕の
だ」とか「僕の作つた灯
ろうはどこ?」と、楽し
ました。

わたしも撮影のために
灯ろうを追いかけました
が、じつくり撮ろうとす
るとあつという間に灯ろ
うが流れてしまします。

カメラのシャッターを
切つては走り、切つては
走り……としていると、
かなり息が切れてしま
ましたが、思わずそうし
たくなるような価値があ
る光景でした。

今年で3回目になる灯
ろう流し。これからも鹿
野の皆さんのが集まり、樂
しむことができる、すて
きな時間になつてくれる
といいな、と思います。

そうに自分の力作を探していました。
わたしも撮影のために
灯ろうを追いかけました
が、じっくり撮ろうとす
るとあつという間に灯ろ
うが流れてしまいます。
カメラのシャッターを
切つては走り、切つては
走り……としていると、
かなり息が切れてしまい
ましたが、思わずそうし
たくなるような価値があ
る光景でした。



と し と う 流 祝 祈 灯 詞

漢陽寺横の池から水路を流れ、鹿野総合支所付近で引き上げられた、100個を超える灯ろう。

今からこれをどうするのだろう、と思っていると、神社の所まで運んでほしいとのこと。それに従い、二所山田神社の参道の階段に灯ろうを並べていきます。

たくさんの灯ろうが放つ暖かい光にあふれた参道に

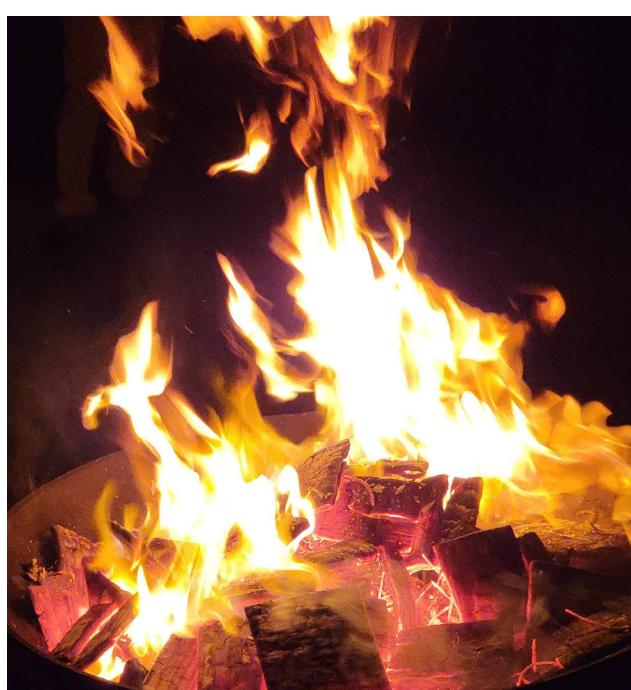
参加者が集まると、宮本宮司さんによって祝詞が奏上され、皆が頭を垂れてお祓いを受けました。

お祓いを受けた灯ろうを手に、今度は龍雲寺さんの駐車場に移動します。

周囲は真っ暗になっています。肌寒さも感じるような時間がなっています。そんな中、駐車場に運ばれた灯ろうが火にくべられ、お焚き上げをされました。

参加者が周囲を取り囲んでいる前で燃え上がる炎と、あつという間に燃えて消えていく灯ろう。燃え上がる炎の近くにいると、パチパチという音とともに、暖かい熱が感じられます。

灯ろうを追いかけて汗だくになり冷え始めていた体に、炎の暖かい熱気が、とても心地よかったです。



姉妹で二人三脚 布が創り出す世界

●作品ポスターを手にする松永沙織さん（右）と藤本志織さん（左）

付けば令和4年も残すところあとわずかになりましたね。今月号の「えーる！」では、12月を飾るイベントについてご紹介します。

12月1日から25日まで、子たぬきのパンさんの2階ギャラリーで始まる「ブティック・リカちゃん×hana-taba」。

リカちゃんのさまざまな日常生活をイメージした展示では、オリジナルの服を着たリカちゃん人形が登場します。

このリカちゃん人形の服を制作したのが松永沙織さん。

広報を担当する姉の藤本志織さんと2人で活動されています。活動の様子は、インスタネット上でも見ることができますよ。

もともと、趣味でリカちゃんの服だけではなく、さまざまな手芸作品を制作されていました松永さん。こうした展示などを行うようになったのは、ほぼ毎月開催されている「かのかくれがマルシェ」主催の岡崎さんからお誘いを受けたことがきっかけなのだと。かくれがマルシェで初出展したことから、今回のギャラ

りー展にもつながっていつたんですね。

こうした妹の活動を支えているのが姉の藤本さんです。

「これまで妹が世に出したこのない作品を、広く知ってほしいと思っています」と語ります。松永さんから作品の写真を送つてもらって、それを使ってインターネット上で投稿されています。ギャラリーだけではなくそちらでも素敵な作品を見てみてくださいね。

今回のギャラリー展示は、お二人だけでなく、光市で活動されている「hana-taba」さんが描かれたイラストを布に転写し、その布で制作した服もあるのだと。ただの布ではなく、世界に二つとない柄の布で作り出される作品たちを、是非見に来てみてくださいね。

気付けば令和4年も残すところあとわずかになりましたね。今月号の「えーる！」では、12月を飾るイベントについてご紹介します。

12月1日から25日まで、子たぬきのパンさんの2階ギャラリーで始まる「ブティック・リカちゃん×hana-taba」。

リカちゃんのさまざまな日常生活をイメージした展示では、オリジナルの服を着たリカちゃん人形が登場します。

このリカちゃん人形の服を制作したのが松永沙織さん。

広報を担当する姉の藤本志織さんと2人で活動されています。活動の様子は、インスタネット上でも見ることができますよ。

もともと、趣味でリカちゃんの服だけではなく、さまざまな手芸作品を制作されていました松永さん。こうした展示などを行うようになったのは、ほぼ毎月開催されている「かのかくれがマルシェ」主催の岡崎さんからお誘いを受けたことがきっかけなのだと。かくれがマルシェで初出展したことから、今回のギャラ



ブティック・リカちゃん×hana-taba

会期 12月1日（木）～25日（日）の

木～日曜日 10時～17時

場所 子たぬきのパン2Fギャラリー

詳しくは「子たぬきのパン」ホームページへ



松永さんに聞く

「手芸を続ける思い」

今回、ギャラリー展示を行う松永さん。小さな人形の服を作られる腕前は、一朝一夕で培われるものではありません。技術に宿る思いをうかがってみました。

「手芸を始めたのは35年ぐらい前で、小学校に入学するより前だつたと思います。母親の見よう見まねで手芸を始めたのがきっかけですね」と振り返る松永さん。あくまで趣味として、お守りや正月飾りなどをフェルトを使って制作されるなどしていたそうです。

リカちゃん人形の服を制作したのは、約3年前のこと。職場の同僚から、娘さんが着なくなつた服を、リカちゃん人形の服に仕立て直すことができないか……と、相談を受けたことがきっかけなのだとか。人形のサイズが分からぬの

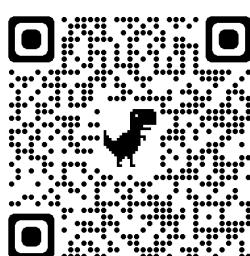
で、自分で人形を購入してイメージをつかみ、服を作りました」と語る松永さんの手で作られた服を着たりカちゃんを見た娘さんが、「自分のお気に入りの服を、リカちゃんが着てる!」ととても喜んでくれたそうです。この出来事から、手芸作品のバリエーションとして人形の服が加わったそうです。

今回の展示では、制作した服だけでなく、カプセルトイで選んだ小物たちも一緒に作品の世界観を創り出します。細部まで気を配った演出があるからこそ、リカちゃんの日常のイメージが、より具体的になつてくるんですね。



このお弁当も、松永さんの作品のひとつ。具材一つ一つに至るまで、細かく再現されていますね！

こうした松永さんの作品が投稿されたSNS「Instagram」は、右のバーコードから見ることができますよ。



「手芸はあくまで趣味で、自分にとっても重なり、少し時間の余裕ができたところに、かくれがマルシェのお誘いを受け、それが縁で今回のギャラリー展示につながりました」同僚からの相談から始まつた服作りは、かく

が、マルシェの岡崎さんのお誘いや、藤本さんの広報活動、そして子たぬきのパンギャラリーのうめざわさんと、デザインを描くtana-tanさん……たくさんのご縁が重なり始まる展示は、きっとすてきなものになります」と思っています。

